

# 小木の子 われら

校 区 内  
全 戸 回 覧

令和7年2月28日発行

## 子どもにさせるべきこととは？

校長 高橋 高志

「先生、それは子どもにさせることだよ。」

これは、今から約三十年前、私が新採用二年目だった頃に先輩の先生から言われた言葉です。体育の授業がうまく進むように休み時間を使ってハードルを並べていた時の話です。私はその言葉を聞いて、ハッとしました。自分のしていることが子どもの成長につながっていないことに気づかされたからです。その先生が言いたかったことは、「少くとも面倒でも、自分たちの学習の場は自分たちで作るものだ。大人が手を出しすぎては、人としての成長につながらない。」ということではないかと思っています。当時私は、五学級二百人の合同体育を担当していました。できるだけ子どもたちにたくさん跳ばせてあげたいと思うあまり、大事なことを見落としていたのです。

父として、二人の子どもが小中学生の頃は、時々その言葉を思い出し、口や手を出しすぎないようにしていました。（つい出してしまったこともあります…）

ちなみに我が家では、次のようなルールがありました。

①荒天・酷暑でない限り、登下校の際は、車での送迎はしない

→暑さ寒さを身をもって体験することでどのように対応すればよいか身につくから。

→自分の足で歩くことでたくましい子に育つから。

②忘れ物をしたとしても、親が学校に届けることはしない

→忘れ物をして困る経験をすることで、忘れ物を防ぐ方法を自分で考えるから。

→忘れ物をしたら家族が届けるのが当たり前という感覚を身につけさせたくないから。

③テストや習い事等でどんなに忙しくても、決められた手伝いは必ずやる

→何よりも家族の生活が大事ということを知ってほしいから。

賛否両論あると思います。しかし、私は、**子どもには、苦勞する権利、失敗する権利がある**と思っています。そして**健全な成長のためには、それを子どもたちから取り上げてはいけない**と思っています。

子どもたちがこれから生きていく時代は、震災やコロナ禍に代表されるように予測不能な時代です。時には理不尽な状況に直面することもあるでしょう。そんな中でも、**くじけず、人のせいにせず、たくましく生きる子**を育てていきたいものです。